

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風 グループホーム(こまくさ)		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

草津良いとこ、そよ風おいで！！と自慢の温泉があり週2回楽しんでいただいています。新型コロナ感染の影響で自粛生活をしてきましたが、だんだんイベントを再開できるようになり、月4回のイベントを行えるようになりました。10月はそよ風グループホーム大イベント【マス掴み大会】を行います。屋食作りでお客様の食べたい物をリクエストしていただき食べていただくようにしています。一人一人の生活を大事にし安心して生活していただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風 グループホーム(しゃくなげ)		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

草津良いとこ、そよ風おいで！！と自慢の温泉があり週2回楽しんでいただいています。新型コロナ感染の影響で自粛生活をしてきましたが、だんだんイベントを再開できるようになり、月4回のイベントを行えるようになりました。10月はそよ風グループホーム大イベント【マス掴み大会】を行います。屋食作りでお客様の食べたい物をリクエストしていただき食べていただくようにしています。一人一人の生活を大事にし安心して生活していただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍を経て、減退してしまった外部との交流や、それに伴う日常生活における刺激に対して、その必要性を理解し活性化を図るために、月4回のイベントの創出を継続的に実施している。あわせて、季節感を味わってもらえる食事の提供をしたいと考え、利用者とともに食事を作るなど参加を呼び掛けた取り組みが行われている。また、ホームが地域社会に開かれた存在となるべく、社会資源との円滑な関係構築が図られるよう、管理者は月初めに関係機関に出向いて情報提供及び情報収集を図り介護支援に繋いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

こまくさ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し職員全員が共通認識し同じ方向を向きケアを行っています。	理念に最もケアに反映をしたい5つの「あい・話し合い・笑い合い・認め合い・助け合い・分かち合い」を掲げ、管理者はじめ職員全員が実践できるよう、毎日の唱和を行う中から、介護提供の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は町のお祭り子供神輿が来てくれました。傾聴ボランティアの方も来てくれるようになりだんだんと交流の機会を増やしていければと思います。	地区ごとに行われる祭り神輿(大人も子供も担ぐ神輿)は恒例行事として、事業所の庭にも来て利用者が見学をたのしめるようにしている。傾聴ボランティアを受け入れ、開かれた環境づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの電話、突然訪問などの相談を必要に応じて対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していますがコロナ感染拡大に伴い開催できない状態であるので生活状況やイベント情報を手紙や電話で報告させていただいて意見をいただきサービス向上を図っています。11月から再開予定。	コロナ禍により対面での会議は未開催にあったが、文書および電話にて定期的に事業所の取り組みなどの報告をしてきた。11月から運営推進会議を開催予定にあり、会議メンバーに案内している。	今後会議を開催することにより、メンバー等のそれぞれの立場や経験等を活かした意見交換により、効果的な会議運営につながることに期待したい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に管理者が空き情報、イベント情報について報告を行っています。	管理者は、月に1度、町や地域包括支援センター、地域の居宅事業者等に出向いて情報提供及び情報収集の機会を設けて、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し会議を行っている。勉強会もおこなっている。勉強会後報告書を提出していただいている。すぐに対策を行い対応するようにしている。なるべく眠剤を使わないようにし利用者様のペースで対応させていただいています。	非常勤職員も含めたすべての職員をメンバーとした身体拘束委員会があり、勉強会が開催されている。勉強会の終了後は、すべての職員が報告書を作成し理解につなげている。管理者は外部研修に参加し、報告書作成及び勉強会で必要な情報提供を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会を行い報告書を書いていただき意識付けを行い職員同士が注意し合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、日常生活自立支援事業を活用させていただき学ばせていただいている。活用できる機会があれば活用していきたいと、思います。月に一度のグループホームの会議で自立支援について話しが必要なお客様の話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今はコロナの影響で事前に見学が出来ませんが居室やフロア、浴槽、イベントなどの写真や動画を見て頂き理解していただいたうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族に【グループホームだより】を送らせていただきご家族に寄り添えるようなおたよりに仕上げています。ご家族受診対応時の時などに要望、相談など情報共有しています。	月一度のホーム便りを作成して、意見等が得られるような内容にしている。そうしたなか、医療提供・面会の方法などの意見があり、ホーム内で検討し対応した具体例があり、運営につなげられるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループカンファレンスを行い職員から意見を出してもらい、業務内容、利用者様の問題点などを話し合い実践していけるようにしている。	利用者の食事の提供方法・入浴方法について職員から変更等の要望があげられ、検討に基づいて調整を行い、業務に反映している。その他、職員の個別的な要望(休みの希望等)については、管理者に直接申し出るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い自己アピールを出来る機会を作り研修の参加や資格取得を組み込み、向上心上昇に努め働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回研修を実施している。新人職員には担当の指導者をつけ業務を行いながら技術を身につける体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内では毎月1回集まり協議会を行い群馬県のセンター、県外のセンターの人とも交流し情報共有を行って各センターの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただく為に関わり合いを密接にし、困りごと、心配事などを傾聴し解決できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは初回の面談を通してご家族様の困っている事、不安な事、要望を聞き解決に向けての提案をするなど関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	草津はデイサービス、ショートステイと多様なサービスの選択肢がある為、ご本人、ご家族様にとって最適なサービスを提示していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩である事を念頭に置き関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の生活状況や身体状況を手紙、グループホームだよりなどで随時報告、共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会人数、面会時間に制限がある為自由には会えたりしませんが、面会の予約をとっていただき会えるように、電話ができるようにしている。	利用者の現在までのアセスメントをもとに、友人の訪問や家族と定期的に時間を過ごす(外出)・通院の付き添いなどの個別的な対応が図られている。職員は継続的な家族との交流により得た情報を、アセスメント情報に加える努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話には傾聴を行い楽しいお話しが出来るように職員が間を取り持つ事をしたりしながら利用者様同士の関係を支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族から相談などがあつた際には話しを伺って支援に努めている。長期入院で退居になったお客様のご家族様と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様1人1人の思い、暮らしの希望、意向を尊重し把握に努めています。	現在に至るまでの生活歴、現在の生活の中での表情・言葉かけへの反応など、各職員の観察の集約を通じて、個々の意向や思い・嗜好傾向などの情報を個別的対応のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様、ご家族に生活歴や暮らし方を聞き把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様、1人1人の過ごし方、心身状態、有する力などを利用者様、ご家族に聞き取りを把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画書、モニタリングを作成、実施している。利用者様、ご家族、日々接している職員と話し合いをし意見をとり入れ介護計画書を作成しています。	介護計画作成には、家族に白紙の介護計画書用紙を郵送で送り、家族意向について書いてもらっている。職員間の話し合いや利用者の日々の様子及びモニタリングから検討し、介護計画作成としている。	要望や意向の背景、課題について話し合い、必要なことを明らかにして、支援目標を職員が共有して日々の実践につなげることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	365日何をしているか記録し朝礼、夕礼、その都度全職員が把握し共有できるようにし実践、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、1人1人に合ったニーズを考え支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナの影響でまだ地域資源(ボランティアの方)を呼ぶ事が出来ない為来てもらえるようになったら来ていただき安全で豊かな暮らしを楽しんでいただける様努めています。傾聴ボランティアには来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、ご家族の希望があれば町内のかかりつけ医であれば、付き添い介助を行っている。現在、こまくさ医院、布施医院、草津クリニック受診対応行っている。	利用者のかかりつけ医を尊重し継続して受診できるよう、町内のかかりつけ医であれば、事業所で通院支援を行っている。遠方への通院となる場合は、家族に対応を依頼している。かかりつけ医に相談をするなど、個人に応じた医療支援に繋がるよう努力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師1名を配置し介護職員が日々の体調を観察し連携をとり受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は電話、面会に行きソーシャルワーカー、看護師と身体面、メンタル面の確認等の情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のケアについて説明を行っている。その都度、本人、ご家族と話し合いながら私たちが出来る事を医療機関との連携を図り、支援している。	方針と終末期のケア・緊急時の対応について説明を行い、承諾を得ている。終末期ケアの必要性が生じたときには、その都度改めて実地的な対応方法について説明と相談を行い対応にあたっている。現在までに、看取り事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い応急処置、AEDの使い方、心肺蘇生術を学び、職員全員で学ぶ機会を設け緊急対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害、噴火災害を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練時には日中、夜間を想定した訓練を行い消防にアドバイスをいただいている。避難場所の確認を行い災害に備えている。	夜間想定を含めた避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーには、消防署・警察にも協力していただいているが、災害時の協力体制構築には至っていない。	運営推進会議等を活用し、災害時の協力体制構築にむけて検討が行われることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で人格を尊重し誇り、プライバシーを損ねない言葉かけ対応などを勉強し実行している。	利用者一人ひとりが人生の先輩であり経験者であると捉え、勉強会やカンファレンスを通じて、意識化する機会を設けている。あわせて、利用者への言葉かけなどについての議論を通じて、日々の実践に繋いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表現できるように職員が常日頃からコミュニケーションをとり話しやすい環境作りを行っている。自己決定ができるように色々な事を選択できる機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のそれぞれのペースの生活を大切になるべく希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや、身だしなみは男性は毎日の髭剃り、月に1回の理美容で本人希望があればパーマ、髪染めなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化と認知症状の低下で出来ない方が多くなってきているが、出来る方と一緒に食事を作ったり片付けなどを行っています。	厨房にて、栄養士に管理されたおかずが作られており、事業所ではご飯・みそ汁を手作りしている。個々の日常生活動作を把握したうえで、食事づくりへの参加に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を毎日行い現病気に合わせて食事提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力でしていただき支援が必要な方は介助にて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を行っている為1名の方が布パンツを使用しなるべくリハビリパンツをはかなくように声掛けを行いトイレに行っていたいています。	基本、トイレでの排泄を考え支援を行っている。定時の時間誘導により、排泄の失敗がなく、その人にあったパット等の検討により違和感が少なく過ごすことを目指している。	排泄の失敗を減少するよう継続的な支援を行うとともに、利用者個々の精神的・身体的な自立について検討し支援につなぐことを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	受診時に主治医に相談し便秘薬の処方をして頂いている。毎朝の朝礼で全員の排便確認を行い必要に応じて摘便や坐薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では午前中にデイサービスが入浴を行っている為、グループホームは午後入浴を行っています。週2回の入浴を行っていませんがなかなかそれ以上入浴回数が増やせていない。便失禁で酷い時などは+で入浴を実施することがある。	温泉での入浴が強みでもあるが、好まない利用者への対応や日常生活動作に応じて機械浴を利用するなど、個々に対応する取り組みがある。入浴を拒否する方には効果的な声掛けを行い、個別に対応して入浴につなげている。週2回の入浴提供を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様の希望に任せています。認知症が強い方はご家族と相談し自宅で就寝していた時間などを聞きその時と同じ時間などに就寝していただいている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬剤情報がありいつでも見られるようにしています。薬の変更があった時には職員全員が見るタ礼ノートに書き情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人のアセスメント時の情報を元に、その方の生活歴や趣味を話題にあげたり気分転換になる事を支援行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの影響でなかなか外に出られていませんが、今年の紅葉狩りに行く予定を立てています。	月に4回、レクリエーション等イベントを実施し、コロナ禍で減少した外出に代わる刺激と活動の機会を提供している。また、月2回近隣のコンビニエンスストアの玄関先での出張販売で、外出気分を味わえる機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を預かっていません。会社のお金で一回払い利用料と一緒に引き落とすようになりました。自分の好きな物を買えるようには支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い電話を行っています。今は手紙を書ける人がいない為手紙でのやり取りは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃担当がいるため、毎日清掃を行っています。フロアについては夜勤者が毎日清掃を行っています。	日常的に共用空間にBGMを流し、利用者の動線上にソファを置いていつでも休めるようにしている。利用者と共に季節を感じることができるような作品を作り、桜や紅葉など天井から下げる飾りつけを施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアなどの共有スペース、ソファなどは好きな時に使えるようになっています。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも相談し、本人のお気に入りの物などを持ってきていただいていた経過を踏まえて工夫を行っています。	好みの居室で過ごしてもらいたいと考え、入居時に、自宅での愛用家具など持ち込んでもらっており、こたつや長年愛用してきた馴染みの家具などに囲まれて、我が家として過ごす空間づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部、トイレ居室などの表記を大きく、見やすく分かりやすく工夫し自立した生活、安全に生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

しゃくなげ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し職員全員が共通認識し同じ方向を向きケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は町のお祭り子供神輿が来てくれました。傾聴ボランティアの方も来てくれるようになりだんだんと交流の機会を増やしていければと思います。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの電話、突然訪問などの相談を必要に応じて対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していますがコロナ感染拡大に伴い開催できない状態での生活状況やイベント情報を手紙や電話で報告させていただいて意見をいただきサービス向上を図っています。11月から再開予定。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に管理者が空き情報、イベント情報について報告を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し会議を行っている。勉強会もおこなっている。勉強会后報告書を提出していただいている。すぐに対策を行い対応するようにしている。なるべく眠剤を使わないようにし利用者様のペースで対応させていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会を行い報告書を書いていただき意識付けを行い職員同士が注意し合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、日常生活自立支援事業を活用させていただき学ばせていただいている。活用できる機会があれば活用していきたいと、思います。月に一度のグループホームの会議で自立支援について話しが必要なお客様の話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今はコロナの影響で事前に見学が出来ませんが居室やフロア、浴槽、イベントなどの写真や動画を見て頂き理解していただいたうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族に【グループホームだより】を送らせていただきご家族に寄り添えるようなおたよりに仕上げています。ご家族受診対応時の時などに要望、相談など情報共有しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループカンファレンスを行い職員から意見を出してもらい、業務内容、利用者様の問題点などを話し合い実践していけるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い自己アピールを出来る機会を作り研修の参加や資格取得を組み込み、向上心上昇に努め働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回研修を実施している。新人職員には担当の指導者をつけ業務を行いながら技術を身につける体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内では毎月1回集まり協議会を行い群馬県のセンター、県外のセンターの人とも交流し情報共有を行って各センターの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただく為に関わり合いを密接にし、困りごと、心配事などを傾聴し解決できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは初回の面談を通してご家族様の困っている事、不安な事、要望を聞き解決に向けての提案をするなど関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	草津はデイサービス、ショートステイと多様なサービスの選択肢がある為、ご本人、ご家族様にとって最適なサービスを提示していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩である事を念頭に置き関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の生活状況や身体状況を手紙、グループホームだよりなどで随時報告、共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会人数、面会時間に制限がある為自由には会えたりしませんが、面会の予約をとっていただき会えるように、電話ができるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話には傾聴を行い楽しいお話しが出来るように職員が間を取り持つ事をしたりしながら利用者様同士の関係を支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族から相談などがあつた際には話しを伺って支援に努めている。長期入院で退居になったお客様のご家族様と連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様1人1人の思い、暮らしの希望、意向を尊重し把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様、ご家族に生活歴や暮らし方を聞き把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様、1人1人の過ごし方、心身状態、有する力などを利用者様、ご家族に聞き取りを把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画書、モニタリングを作成、実施している。利用者様、ご家族、日々接している職員と話し合いをし意見などを取り入れ介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	365日何をしているか記録し朝礼、夕礼、その都度全職員が把握し共有できるようにし実践、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、1人1人に合ったニーズを考え支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナの影響でまだ地域資源(ボランティアの方)を呼ぶ事が出来ない為来てもらえるようになったら来ていただき安全で豊かな暮らしを楽しんでいただける様努めています。傾聴ボランティアには来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、ご家族の希望があれば町内のかかりつけ医であれば、付き添い介助を行っている。現在、こまくさ医院、布施医院、草津クリニック受診対応行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師1名を配置し介護職員が日々の体調を観察し連携をとり受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は電話、面会に行きソーシャルワーカー、看護師と身体面、メンタル面の確認等の情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のケアについて説明を行っている。その都度、本人、ご家族と話し合いながら私たちが出来る事を医療機関との連携を図り、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い応急処置、AEDの使い方、心肺蘇生術を学び、職員全員で学ぶ機会を設け緊急対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害、噴火災害を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練時には日中、夜間を想定した訓練を行い消防にアドバイスをいただいている。避難場所の確認を行い災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で人格を尊重し誇り、プライバシーを損ねない言葉かけ対応などを勉強し実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表現できるように職員が常日頃からコミュニケーションをとり話しやすい環境作りを行っている。自己決定ができるように色々な事を選択できる機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のそれぞれのペースの生活を大切になるべく希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや、身だしなみは男性は毎日の髭剃り、月に1回の理美容で本人希望があればパーマ、髪染めなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化と認知症状の低下で出来ない方が多くなってきているが、出来る方と一緒に食事を作ったり片付けなどを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を毎日行い現病気に合わせて食事提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力でしていただき支援が必要な方は介助にて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を行っている為1名の方が布パンツを使用しなるべくリハビリパンツをはかないように声掛けを行いトイレに行っていたいています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	受診時に主治医に相談し便秘薬の処方をして頂いている。毎朝の朝礼で全員の排便確認を行い必要に応じて摘便や坐薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では午前中にデイサービスが入浴を行っている為、グループホームは午後入浴を行っています。週2回の入浴を行っていませんがなかなかそれ以上入浴回数が増やせていない。便失禁で酷い時などは+で入浴を実施することがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様の希望に任せています。認知症が強い方はご家族と相談し自宅で就寝していた時間などを聞きその時と同じ時間などに就寝していただいている方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬剤情報がありいつでも見られるようにしています。薬の変更があった時には職員全員が見るタ札ノートに書き情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人のアセスメント時の情報を元に、その方の生活歴や趣味を話題にあげたり気分転換になる事を支援行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの影響でなかなか外に出られていませんが、今年の紅葉狩りに行く予定を立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を預かっていません。会社のお金で一回払い利用料と一緒に引き落とすようになりました。自分の好きな物を買うようには支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い電話を行っています。今は手紙を書ける人がいない為手紙でのやり取りは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃担当がいるため、毎日清掃を行っています。フロアについては夜勤者が毎日清掃を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアなどの共有スペース、ソファなどは好きな時に使えるようになっています。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも相談し、本人のお気に入りの物などを持ってきていただいているように工夫を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部、トイレ居室などの表記を大きく、見やすく分かりやすく工夫し自立した生活、安全に生活が送れるように工夫している。		